

S.F.A.通信 第23号

(和歌山県漁業士連絡協議会報)

平成30年5月

発行：和歌山県漁業士連絡協議会

S.F.A. (=Senior Fishery Adviser、漁業士)

漁業士

将来の中核的漁業者として期待される漁業者や、優れた漁業経営を行い指導的役割を果たしている漁業者をそれぞれ「青年漁業士」、「指導漁業士」と県が認定し、現在119名（平成29年2月）の漁業士が地域産業の担い手として活躍しています。

和歌山県漁業士連絡協議会

漁業士相互の交流や資質向上、連絡調整を目的に平成元年に発足した和歌山県内の漁業士で構成される組織です。

年1回の総会のほか、他県漁業士との交流会、魚食普及活動、部会単位での会合などを通じて、お互いの情報交換や親睦を図っています。

～より良い結婚支援のあり方講座～

平成29年8月4日（金）和歌山市のビッグ愛において開催された「より良い結婚支援のあり方講座」結婚支援者向け実践型セミナーに塩谷昇会長が参加しました。

標記講座では、恋愛カウンセラー羽林由鶴講師指導のもと、「結婚応援をするうえで大事なこと」「企業や団体だからできること」「企業や団体が協力してやれること」について、ワークショップが行われました。



▲講座の様子

～わかやま健康と食のフェスタ～

平成29年10月29日（日）和歌山市の和歌山ビッグウエーブにおいて開催された「わかやま健康と食のフェスタ2017」に出展し、塩谷昇会長が出席しました。

標記フェスタは和歌山県が主催しており、健康推進や食育に携わる団体、企業等と連携し、食育・地産地消を推進するとともに、県民の健康意識の高揚を図り、「健康長寿日本一わかやま」の実現を目指して取り組んでいるイベントです。

当日は、台風の影響が心配されましたが、本会の出展した「お魚タッチ」では、水槽に泳ぐ魚（アジやカワハギ、ヒラメほか）を手づかみする子どもたちが歓声を上げて賑わい、盛況のうちに閉会となりました。



▲お魚タッチの様子①



▲お魚タッチの様子②

～瀬戸内海ブロック漁業士研修会～

平成29年11月6日（月）～7日（火）にかけて、広島県尾道市において瀬戸内海関係11県の漁業士が参加する研修会が開催され、塩谷昇会長と宮崎正副会長が出席しました。

1日目は、漁業士による各県の活動報告や意見交換が行われました。続いて話題提供では、尾道漁協仁田俊理事より、平成13年度に刺し網漁業者4名、底びき網漁業者2名、はえなわ漁業者1名で結成された「新鮮組」による直接販売と漁協合同販売事業の取組について紹介がありました。

2日目は、向島町漁協（アサリの種苗生産、潮干狩りの話題提供）とJA ええじゃん尾道（施設運営の説明、店舗見学）を訪問しました。



▲朝市アサリの保護ネット（向島町漁協）



▲種苗生産水槽（向島町漁協）

～海男と漁婚party2017開催～

本会では、後継者対策の新たな取り組みとして、平成29年度婚活イベント「海男と漁婚 party2017」を開催しました。

本イベントは、和歌山県漁業協同組合連合会主催、漁業士連絡協議会実施のもと、平成29年11月25日（土）和歌山市のイタリアンバル「ババーネ」において開催し、総勢34名（男性18名、女性16名）の方々にご参加いただきました。1対1の自己紹介に始まり、当会から差し入れの鮮魚を使ったオリジナルメニューのお料理を堪能していただきました。

当初、シャイで寡黙なイメージのある漁業者に心配しておりましたが、終始和やかな雰囲気の中、7組のカップルが誕生という大変喜ばしい結果となりました。

また、参加された漁業者の皆様方からの反響もよく、引き続きイベントを開催していきたいと考えております。



▲初開催となった婚活イベントの案内

～漁業士認定～

平成30年2月20日（火）、ダイワロイネットホテル和歌山において、「農業士・林業士・漁業士認定式」が開催され、以下の5名の方が漁業士に認定されました。

青年漁業士

中尾 勇さん（和歌浦漁協）

指導漁業士

加美 誠さん（加太漁協）

瀬田 証さん（比井崎漁協）

田ノ岡 誉将さん（和歌山南漁協）

小山 貴久さん（和歌山南漁協）

真鍋 和功さん（和歌山南漁協）



▲知事、県議会議長とともに記念撮影

（後列右端から順に 中尾さん、真鍋さん、小山さん、田ノ岡さん、加美さん）

～知事感謝状～

指導漁業士として永年にわたりご活躍された2名の方々に對し、知事から感謝状が贈呈されました。

知事感謝状贈呈者

八木 芳行さん（海南市漁協）

寺町 忠さん（和歌山東漁協）



▲知事、県議会議長とともに記念撮影

（後列右端から順に 寺町さん、八木さん）

～全国漁業士連絡会議～

平成30年2月28日（火）、全国の漁業士が一堂に会し、情報交換を行う全国漁業士連絡会議が水産庁において開催され、本県からは宮崎正副会長が出席しました。会議の冒頭、長谷成人水産庁長官より「水産業について近年変わったことが3つある、1つ目は地球規模の環境変動（台風の軌道や魚の分布の変化）、2つ目は日本周辺の外国漁船の増加、3つ目は本格的な人口減少期に入ったこと。今後海の姿は相当変わることが予想されるが、水産庁では水産業の改革の骨格を作っているところ、浜プランや広域浜プラン等に今頑張っていて取り組んでいる人がいる所では引き続き漁を続けることができ、人がいないところでは企業等がスムーズに参入できるよう検討を進めている」と挨拶がありました。その後、各ブロック代表による事例報告が行われたほか、水産庁企画課より、水産エコラベルをめぐる状況について情報提供がありました。

～魚食普及活動～

平成29年度は部会活動も含め、計4回の魚食普及活動を実施しました。水槽に泳ぐ魚をびくともせず、「獲ったぞー」と手づかみする園児やヒシや歯、体表について興味深く観察していた生徒など、様々な表情が垣間見えた「お魚タッチ」が印象的でした。

平成29年度魚食普及活動一覧

実施年月日	対 象	内 容	備 考
平成29年10月30日	御坊市立塩屋小学校5年生	お魚教室、お魚タッチ、漁港施設見学 しらす丼作り 漁業の話①日高地方の漁業について 漁業の話②まき網漁業について	まき網部会
平成29年11月2日	御坊市立わかば保育園児	お魚タッチ、お魚教室、しらす丼試食 チリメンモンスター探し	本会
平成29年1月31日	有田市立津木小学校5年生	お魚タッチ、有田地区の「漁業の話」 チリメンモンスター探し	有田地区 部会
平成30年2月26日	はまゆう支援学校高等部	お魚タッチ、しらす丼作り 漁業者に変身(救命胴衣や作業着の装着体験) 漁業の話①まき網漁業について 漁業の話②日高地方の漁業について	まき網部会



▲漁港施設見学（塩屋小学校）



▲しらす丼作り（塩屋小学校）



▲チリメンモンスター探し（わかば保育園）



▲おさかなタッチ（わかば保育園）



▲お魚タッチの様子（津木小学校）



▲有田地区の漁業の話（津木小学校）



▲お魚タッチの様子（はまゆう支援学校）



▲漁業の話（はまゆう支援学校）

◆◆◆ 部会情報 ◆◆◆

～～有田地区部会～～

◆鮮魚販売

平成29年11月18日（土）かつらぎ町のかつらぎ公園グラウンドで開催された「第29回かつらぎ町産業まつり」に出店しました。底びき網で漁獲された鮮魚類(マダイ、マナガツオ、イボダイ、マルアジ、コウイカ、クマエビ等)やサザエ、釜揚げシラスを販売しました。

当日は、前夜から降り続く雨の影響を心配されましたが、無事完売しました。

～～一本釣り部会～～

平成30年1月20日（土）日高振興局において、総会を開催しました。

総会では、視察研修案について説明がありました。

また、平成29年度漁業士研修会で行われた株式会社ウエカツ水産代表上田勝彦講師による実技DVDを鑑賞しました。

◆視察研修

平成30年1月30日（火）～31日（水）の2日間、日高地方で漁獲された魚やイセエビの流通経路を追跡・確認することを目的とし、赤穂市漁業協同組合坂越かき直売所(兵庫県赤穂市)、神戸市中央卸売市場本場（兵庫県神戸市）、くら天然魚市場（大阪府貝塚市）へ視察研修に行ってきました。

～～まき網部会～～

平成29年11月24日（金）和歌山南漁協漁村センターにおいて、総会及び研修会を開催しました。

総会では、活動実績報告後、視察研修案について説明がありました。

また、研修会では、「浮魚資源の状況及び海況について」和歌山県水産試験場の研究員による講義が行われました。

◆視察研修

平成30年1月30日（火）～31日（水）の2日間、マルアジのブランド化に向け、脂質含量分析機器「Fish Analyzer」について、メーカーと情報交換や同機器を用いたブランド化の取り組み事例のある先進地視察を目的とし、大和製衡株式会社（兵庫県明石市）、明石浦漁業協同組合（兵庫県明石市）へ視察研修に行ってきました。

～～東牟婁地区部会～～

平成30年3月10日（金）紀州勝浦漁協において、第1回部会会議及び勉強会を東牟婁漁村青年協議会と共同で開催しました。

部会会議では、平成29年度活動報告及び平成30年度活動計画について報告がありました。

また、研修会では、「黒潮大蛇行及びカツオ・マグロ資源の動向について」和歌山県水産試験場の研究員による講義が行われました。

お問い合わせ先 和歌山県漁業士連絡協議会事務局
和歌山県漁業協同組合連合会 総務指導課 橋爪
TEL 073-431-5101 FAX 073-422-1137
E-mail wk-shido@wkyoren.jf-net.ne.jp

◆◆◆ われら漁業士 ◆◆◆

魚価単価の向上に向けて

海南市漁協冷水浦支所
青年漁業士 八木 秀憲

昨年2月に青年漁業士に認定され、漁業士連絡協議会に入会しました八木です。

私は専門学校卒業後、20歳から祖父と父が従事していた船びき網漁業の網船及び漁獲物運搬船に船上作業員として乗船しました。祖父や父の指導の下、船びき網漁業の基礎を学び、網船の操縦士を経験したのち、2年前から漁獲物運搬船の操縦士として漁業に従事しています。

現在は、シラスの資源管理の取り組みとして、毎週水、土、日曜日を休漁日としており、水、土曜日には刺網漁業を行っています。

近年、イカナゴ資源が少なくなってきたおり、漁獲がない状況で、シラスもイカナゴ同様に少なくなってきたと実感しています。このような状況下で、漁業を営むためには、魚価単価の向上が重要だと考えており、どうしたら、単価向上につながるか、日々試行錯誤しています。船びき網漁業であれば、カエリに止まったシラスはセリにかけても、魚価が付かないため、産直市場へ持っていき販売を行ってみるなど、やれることはあると思いますので、今後とも魚価の向上に尽力していきたいです。

依然として、漁業を取り巻く環境は厳しく、海草地域全体を見ても、漁業者が少なくなっていく傾向があります。今後は青年漁業士として、この厳しい時代を生き抜いていけるよう後輩漁業者の指導に力を入れ、先輩漁業者とともに頑張っていこうと思います。

